

諏訪地方の 経済概況速報

2026年5月末調査／2026年6月25日発行

2026
6月

製造業 Manufacturing Industry

生産過程に必要な石油由来の副資材不足

商業 Commerce

強まる消費マインドの低下

観光・サービス業 Tourism and service industry

入り込み好調、熊の目撃懸念

建設業 Construction industry

建築資材不足やコスト上昇続く

雇用 Employment situation

有効求人倍率40ヵ月ぶりに前年同月上昇

今月のコラム

「インフレ再燃で実質賃金が心配」



諏訪地方の概況

●諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ

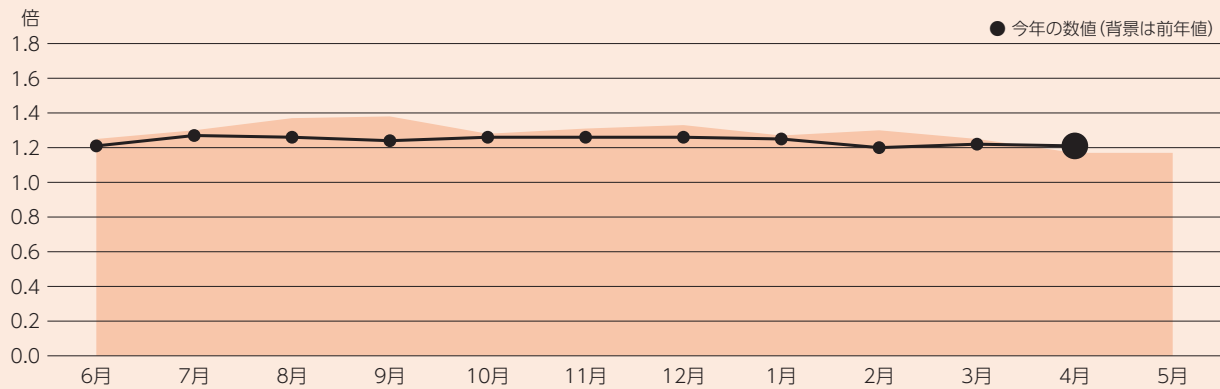
2026年5月は、米国・イスラエルとイランの紛争が長引き、エネルギー輸送の要衝・ホルムズ海峡が事実上の封鎖状態となって約3ヵ月が経過した。国内では、ガソリン価格は政府補助金もあって比較的落ち着いていたが、広範囲な石油化学製品の原料となるナフサ（粗製ガソリン）の供給不安は収まらず、地域企業にも影響がおよんだ。石油化学製品のサプライチェーンの各段階で、安定的な原料の調達が懸念され、値上げの連鎖が起きた。一方で、世界的な

人工知能（AI）の普及を背景に、関連企業の業績が拡大。今後の期待も大きく、日経平均株価は29日に、過去最高値の66,000円台となった。

諏訪地方では、多業種の企業がコスト高に収益を圧迫されているが、極端な落ち込みには至っていない。ただ、5月は中東情勢の好転が見られず、自助努力ではまかなえない状況のため、近い先行きに強い不安感を持つ企業が多かった。

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【4月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.21 倍	0.04 ポイント
国県公共工事【5月】 （税抜・地元企業受注分）	件 数	12 件	6 件
	金 額	832 百万円	513 百万円
6市町村公共工事受注【5月】 （税抜・業務委託除く）	件 数	35 件	△28 件
	金 額	610 百万円	△843 百万円
車庫証明取扱件数【5月】（諏訪地方合計）		830 件	1.9 %
新設住宅着工戸数【2026年4月】（諏訪管内）		53 戸	△49.5 %

●有効求人倍率の推移



人工知能の需要の高まりを受け、データセンターや半導体製造装置関連は好調で、取引先からの増産要請や新規案件の引き合いも多く、今後も受注の増加が予想されている。設備導入で旺盛な需要に対応する量産体制を整える企業もある。自動車関連はメーカーによって差があるが、省力化機械や専用機などの動きも悪くない。しかし、ほとんどの分野で中東情勢悪化の影響があり、生産過程に必要なアルミやプラスチックなどの材料をはじめ、プロパン、窒素、LPG、アンモニア、水素などのエネルギー、防錆油や潤滑油、切削油、塗料、シンナー、樹脂など原油由来の副資材の不足と価格上昇が表面化した。加えて、「石油製品より、タングステンやコバルトなど、中国で採れるレアメタルの方が不安定」という企業もあり、中国のレアアース輸出規制の影響も見られる。代替品の対応などで持ちこたえている企業もあり、先行きへの不安が深まった。

■金属製品

プレス、メッキ、熱処理など

半導体製造装置関連の受注は、引き続き好調を維持している。ダイカスト関連も取引先から増産指示を受ける企業があるが、塗装やシンナーなど二次表面処理加工で原油由来の資材が不足し、一連の生産が危ぶまれる。仕入れの目途が立たないという企業もある。自動車関連は、メーカーや車種ごとに差がある。

■一般機械

工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など

半導体製造装置に関わる機械部品の受注が好調に推移している。半導体の供給拡大により周辺分野の設備投資意欲も上向いている。医薬品業界の製剤や検査の専用機需要も落ち込むことなく底堅く、安定推移すると見られる。ただ、中東情勢悪化に伴い、ナフサ関連の溶剤や樹脂の仕入れ制限が続き、手に入りにくい状況になっている。資材価格の急激な上昇で、受注自体は堅調だが、コスト高が利益を圧迫する企業が多い。部材の不足で完成品にならず、納期不明の案件も出始めている。

■電気機械

家電、パソコン、情報機器、電子デバイスなど

電子部品の需要がますます伸び、量の増加だけでなく、高機能化や高付加価値化の方向に進んでいる。生成人工知能（AI）関連分野向けなどに、高精度な半導体部品の需要が急増している。防衛関連の特殊基板の受注も増加傾向となっている。ただ、副資材の調達に不透明感があり、代替材料への転換が必要なものもある。

■輸送用機械

自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など

自動車関連はメーカーによって格差がある。ハイブリッド車の動きが活発な一方で、増産の勢いで部品在庫が増えた矢先のイラン攻撃で動きが止まったり、ホンダのEV撤退で一部の受注がなくなった企業があり、業況はまちまち。中東情勢悪化で石油関連の切削油や資材の供給が不安定となり、価格は10%～20%上がり、注文も制限されている。また、タングstenは価格が3倍となり、代替品を含め仕入れで影響が出始めている。船外機の需要は旺盛。

■精密機械

時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など

半導体関連の装置需要が増加し、設備投資で量産に備える企業がある一方で、多くの企業が中東情勢悪化による材料調達への不安を持っている。真鍮などの値上げが顕著で、梱包材や発泡スチロール、工業油は受注制限がかかっている。通信機器関連の光ファイバー等ケーブルは好調を維持し、産業用レンズ関連や監視カメラはやや停滞している。圧力計器は堅調に推移している。

■製造業全般

漬物は、原材料のキュウリ、ハクサイ、キャベツ、ダイコンなどの野菜の価格は安くなっているが、マルチなど農業資材の価格が高騰し、来期は価格が上昇することが見込まれる。冬に向けハウス栽培の野菜の価格が高騰してしまうことも懸念される。みそは、夏のギフト商戦に向けての生産が急ピッチで進む。世界的にも和食文化の浸透や発酵食品の人気、植物プロテイン（タンパク質）の嗜好など、業界には追い風が多い。商品の包装資材調達に関しては、目詰まり感がある。

中東情勢の影響が地域企業にも波及し、幅広い商品価格の上昇が続く、消費マインドの低下が強まっている。スーパーなどでは、来店客が旬の食材や限定のキャンペーン商品を手に取るものの、結局価格面で購買を敬遠されるなど、「買い控え」が深刻化している。また、以前に比べて夜間に出歩く観光客などの数が減り、利用者数が減少傾向となっている観光地の飲食店がある。今後も多くの商品の価格上昇が見込まれ、先行き不安が高まっている。こうした中、家庭用エアコンは2027年4月以降、経済産業省が定めた省エネ基準となる製品が、現在より割高となる「2027年問題」で、駆け込み需要が発生している。

■スーパー

中東情勢の影響で、メーカーから発注量を増やさないうような通達があり、店頭在庫が品薄となったポリ・ごみ袋について、一人当たりの買い上げ点数の制限を設けた店舗がある。

■土産物店

ゴールデンウィークは前年同期より増加傾向となった。団体客は少なくなっているが、修学旅行の学生や合宿関係者が多かった。

■飲食店

常連客の外出控えで、来店客数が減少している店舗がある。以前より二次会利用が少なく、酒類の売り上げが伸びない傾向。不漁やコストが上昇している魚介類がある。

■靴店

急に暑くなった影響で、サンダルを求めに来る顧客が増え、単価の高いスニーカーが低調になった。

■生花店

母の日は鉢植えやアレンジメントが好調で、客単価は上昇した。ブライダルは少なく、祝花や葬祭などは前年並みだった。

■家電店

エアコンの買い替え需要が出ている一方で、中東情勢の影響で部材の仕入れ制限があり、設置遅れが発生している。

■野菜等直売所

物価高の影響から、値段の高いゴールデンウィークを避けて観光すると見られる人の動きがあった。梅雨時は人の動きが鈍るが、梅雨明け後は夏のハイシーズンとなるため活発な人の動きが期待されている。

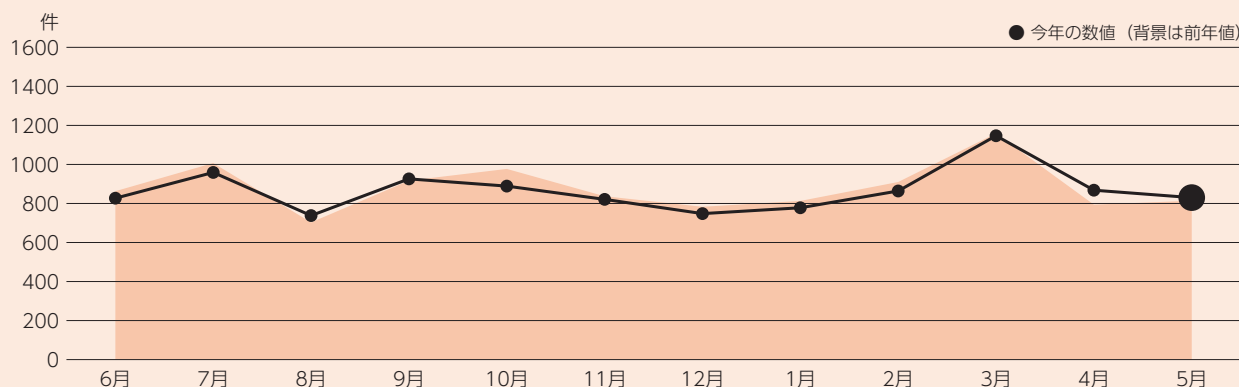
■自動車販売

諏訪地方の5月の車庫証明件数は830件で、前年同月比16件、1.9%増加した。

■燃料販売

中東情勢悪化に伴い燃料価格が上昇し、一部燃料（重油、揮発油、潤滑油）の仕入れに支障をきたしている。一般販売への燃料提供は制限され、取引先への提供には、引続き一定の制限をかけての販売となった。

●車庫証明件数の推移



観光・サービス業 入り込み好調、熊の目撃懸念

04

長野地方気象台の観測で、5月の諏訪は月平均気温が17.3度で2015年と並び、戦後最も高かった。今年のゴールデンウィークの観光客の入り込みは、高原の観光地を中心に前半がやや低調だったが、後半は天候が良く盛り返した。ただ、多くの施設で材料費や人件費などの増加が止まらない。価格転嫁も実施しているが、単に値上げを行うと観光客離れが起きてしまう可能性があるため、サービスにどのような付加価値をつけるかが課題となっている。気候の変化で、山野草の開花時期が全体的に早まり、観光施設への来場者増加が期待されている。半面、ほぼ毎日熊の目撃情報が報道されており、来場者への影響を懸念する施設もある。

■上諏訪温泉

5月の前年同月比の宿泊人数は、諏訪湖温泉旅館協同組合加盟の14施設中11施設がプラスとなった。14施設総体の5月客室稼働率は、83.1%（前年

77.1%）だった。立山黒部アルペンルート開通に伴うインバウンド客が好調だった。

■下諏訪温泉

桜の季節が終わりインバウンドは少なくなったが、県外客のリピーターが多く、連泊が多かった。

■蓼科・白樺湖・車山・富士見等

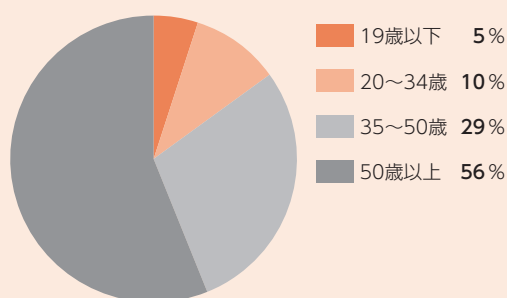
多くの観光、宿泊施設は売上、宿泊人数ともに前年を上回り、客室稼働率も好調をキープした。今年はスズランの開花が昨年より早く、来場者数の増加に寄与した。7月、8月の予約状況は順調な施設が多い。

■諏訪大社

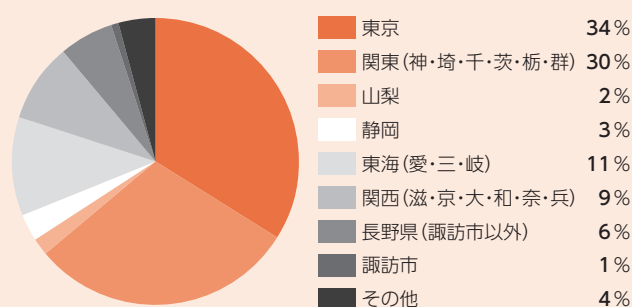
上社・下社合わせた5月の参拝者数は約115,000人だった。前年同月に比べ約2,500人、27.4%増加した。

●諏訪市観光案内所 5月日本人来訪者（一般社団法人諏訪観光協会提供）

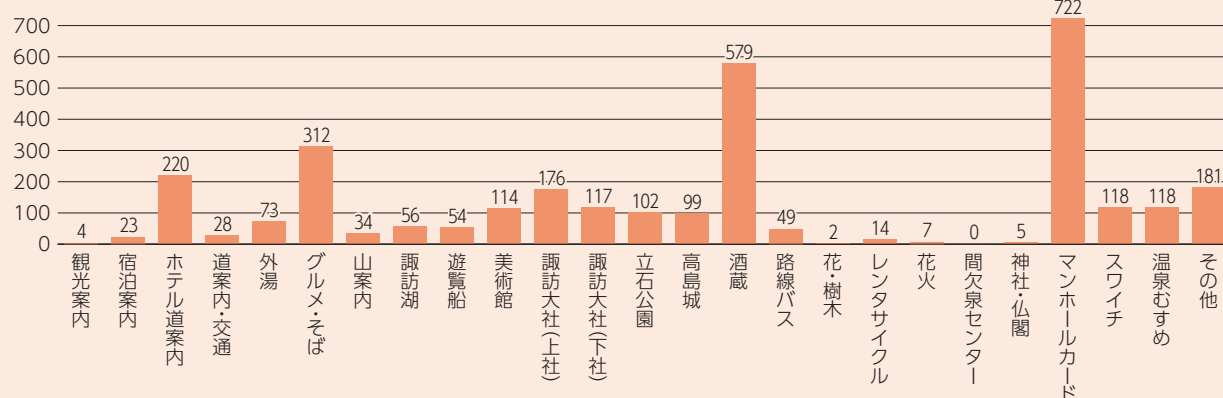
〈年齢別構成比〉



〈居住地域〉



〈案内先〉複数案内（単位：人）



5月の市町村からの受注工事は、合計35件610百万円となった。前年同月に比べ件数は28件減少し、契約金額も843百万円、58.0%減少した。国、県関係の2026年4月～5月の累計公共工事（地元業者受注分）は、前年同期に比べ件数、契約金額とも増加した。一方、民間工事は、諏訪地方の4月の新設住宅着工戸数が53戸で、前年同月に比べ52戸減少（△49.5%）した。中東情勢の影響で建築資材の高騰が続いている。

■公共工事

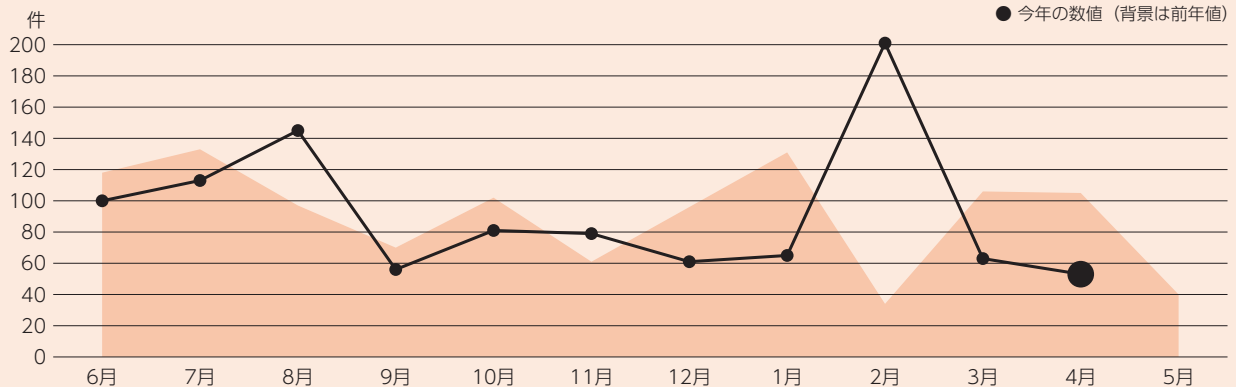
5月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、国関係は3件、県関係は諏訪建設事務所6件、諏訪地域振興局林務課1件、その他土木・建築工事2件の合計12件で、契約金額は832百万円だった。2026年4月～5月の累計は19件1,230百万円で、

前年同期比で件数は8件増加し、契約金額は443百万円増加（56.3%）した。市町村からの5月の受注工事は、建築工事が2件156百万円、土木工事および下水道工事27件405百万円、その他工事6件49百万円だった。

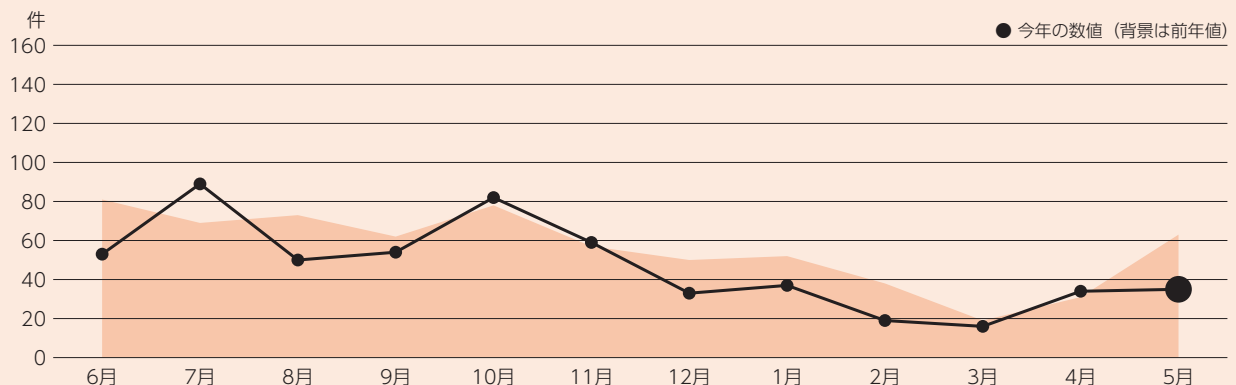
■民間工事

4月の民間工事の利用関係別は前年同月比で、「持家」が17戸減少の44戸、「貸家」は29戸減少の6戸、「分譲」は3戸減少の3戸、「給与住宅」は3戸減少の0戸だった。長野県内の4月の新設住宅着工戸数は864戸で、前年同月比0.6%増加した。利用関係別の対前年同月比は、「持家」が13.5%増加、「貸家」が23.0%減少、「分譲」が0.8%の減少となった。

●新設住宅着工件数の推移（諏訪地方合計）



●公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



雇用 有効求人倍率40ヵ月ぶりに前年同月上昇

06

諏訪地方の4月の有効求人倍率は、前年同月比0.04ポイント上昇し、前月比0.01ポイント低下の1.21倍となった。40ヵ月ぶりに前年同月を上回った。長野県の有効求人倍率は、前月を0.01ポイント上回る1.25倍だった。全国の有効求人倍率は、前月から横ばいの1.18倍だった。全国的には人手不足を背景に、省人化が進み、新規求人の減少が続いている。全国の完全失業率は、前月比0.2ポイント低下の2.5%だった。

諏訪地方の新規求人数は1,696人で前年同月比366人増加（27.5%）した。業種別前年同月比の新規求人数は、製造業が50.3%、運輸業・郵便業139.5%、卸売業・小売り業72.7%と増加したが、建設業△3.2%、その他サービス業は△7.8%と減少した。新規求職者数は862人で、前年同月比20人減少（△2.3%）し、7ヵ月連続で前年同月を下回った。

Voices

企業のひとこと

●金属製品製造業

- ・受注は心配ないが、材料の入手ができず「操業停止」になるのが怖い。
- ・大手企業が材料の確保に一生懸命動いているが、それによりよけいに流通が悪くなるのではないか。

●一般機械製造業

- ・取引先企業からの材料支給は、利幅は抑えられてしまうが、今の時期は助かる。
- ・全体的に売上は回復傾向だが、その分、材料の調達に不安が募る。樹脂関連は調達できない状態で、どこかが堰き止めている印象がある。
- ・大手メーカーが、製造を下請け企業に依存している部品の価格転嫁は柔軟。
- ・AIやDX化の流れで当然だが、ハードの製造がこなせるエキスパート人材が育たない心配が出てきた。機械製造分野でも人間の手で行う技術の継承が、大きな問題になっている。

●輸送用機械製造業

- ・価格転嫁交渉は営業担当だけでなく全社的に対応している。販売価格を引き上げる交渉だけでなく、製造コストの見直し、生産性向上の可能性を模索しながら交渉価格を検討している。ナフサ目詰まりの影響は大手に配慮している証拠。大手が困らないように販売を渋っている感がある。
- ・大手の投資動向がAIに向いており、ものづくりの面では今の性能で十分という認識に変わってきている。加えて、中国の技術が「安かろう、悪かろう」から「安かろう、まあまあ悪くない」まで来ており、技術力での差別化が図りにくくなっている。

●電気機械製造業

- ・ナフサ由来の各種原材料は、大手メーカーに影響が出ないように確保、調整している。中小・零細企業が自社で注文しても手に入らないものが、大手メーカーの働きかけがあれば入手できるとの話も聞く。

●精密機械製造業

- ・ナフサ由来の製品は、国は「心配ない」、一方現場は「ない、ない」と言う。結局、中間が抱えて出さないのではないか。

●食品製造業

- ・□に入る食材の値上がりならまだしも、ナフサ由来の包装資材が30%値上がりし、複雑な思い。

●靴店

- ・石油不足で靴底が生産できず、9月中旬ごろに仕入れが困難になると予想している。東京で靴の展示会に参加したが、ほかの靴屋さんも売上が減少し、みんな頭をかかえている。

●建設業

- ・資材高騰、建築費の高騰で多くの経営者が設備投資に対し慎重になり、工場、店舗などの箱物新築の案件需要が少なくなっている。
- ・全国的に話題となっている水道管の老朽化は諏訪地域でも懸念材料。現在は調査段階。

●観光業

- ・諏訪地域は夏が涼しいと思えなくなるほど気温が上昇しており、観光客に影響が出るのか心配。
- ・当地区に限ったことではないが、同業者の廃業で集客が好調に推移するなど複雑な心境。

インフレ再燃で実質賃金が心配

株式会社
小宮コンサルティング
CEO 小宮 一慶氏



今年に入って1月から4月までは「実質賃金」が4か月連続でプラスとなりました。実質賃金は、額面の給与（名目賃金）の伸びからインフレ率の伸びを引いたもので、給与の伸びのほうが高かったということです。

年ベースで見た場合、4年連続で実質賃金はマイナスでしたから、そこから見ると国民生活にはおおいにプラスとなることです。実質賃金がマイナスということは、昨年買ったものが同じ数量買えないということです。お子さんがいる家庭などでは、食べ物の量は減らせませんから、実質賃金がマイナスの状況では質を落とすしかありません。

また、GDPを支える50%強は家計の支出ですから、実質賃金がマイナスということは、日本経済全体に与えるインパクトも小さくないのです。

それが、4カ月連続でプラスになったわけで、このこと自体はとても望ましいことですが、注意しなければならないことがあります。インフレ再燃です。

今年に入り実質賃金がプラスになった大きな要因は、インフレ率（消費者物価指数、生鮮除く総合）の伸び率が鈍ったことです。表を見ていただきたいのですが、昨年12月のインフレ率は2.4%でした。昨年全体では、おおむね3%程度でした。それが表にあるように、今年に入り、1月が2%、それ以降は1%台に落ちています。

	日本		米国	
	消費者物価	企業物価	消費者物価	卸売物価
12月	2.4	2.4	2.7	3.1
2026年1月	2.0	2.4	2.4	3.1
2月	1.6	2.1	2.4	3.4
3月	1.8	2.9	3.3	4.3
4月	1.4	4.9	3.8	6.0
(出所)	総務省	日銀	労働省	労働省

その理由は、昨年12月末でガソリンの暫定税率がなくなったことが大きく影響しています。さらには、1月、2月には電気・ガスの補助金が出ています。このところ毎年、寒い時期には、電気・ガスに補助金が出ているのです。

今後、私はいくつかの理由で、インフレが再燃すると考えています。

ひとつは、企業物価、つまり企業の仕入れが上がってきていることです。表を見ると、先ほども述べたように、日本の消費者物価は落ちています。実は、企業物価はこのところかなり上がっています。2月が前年比2.1%だったのが、2月28日にはじまったイラン戦争の影響

もあり、3月2.9%、4月はなんと4.9%に跳ね上がっています。

企業を経営しておられる方ならもうすでにお分かりだと思いますが、石油由来の商品を中心に、かなりのものが値上がりしているのです。政府は、石油製品、とくにナフサやそれ由来の商品の在庫は十分で、「目詰まり」を起こしているだけという説明をしています。

確かに、輸入量を見れば、量的には確保されています。

しかし、事業者から見れば、万一、事業を行うのに必要な品物がなくなれば事業の継続が難しくなるので、こういう状況では、普段より多く確保したいと考えるのが人情です。そうすると、需給の関係で当然値上がりします。

ナフサから作られる製品を扱っている業者さんから話を聞くと、3割程度は上がっていると言います。中には5割ほど上がったものもあるということです。「数量」確保が至上命題ですから、高くとも買わざるをえないのです。

ただ、購買力がない零細事業者の中には、「買い負け」しているところもあります。あるパン屋さんでは、食パンを入れる袋が調達できないので、お客さまに以前使った袋を持ってきてもらえば10円値引きをしていると、テレビで放映していました。

いずれにしても、一部の商品にはこの高値がしばらく続くと考えられます。

さらには、円安が日本の輸入物価をこのところ押し上げており、これも、企業物価の上昇を通じて、消費者物価に影響を及ぼします。

もう一つ、インフレが再燃すると私が考えている理由は、米国の統計からです。表にあるように、米国では、消費者物価や卸売物価は、イラン戦争以降大きく上がっています。消費者物価はイラン戦争前の1月、2月には2.4%で落ち着いていたのが、3月が3.3%、4月は3.8%と急上昇しました。卸売物価は4月には6%まで上がっています。米国では、ガソリンなどに補助金が出ていないからです。

これは、11月に中間選挙をひかえるトランプ大統領には大きな痛手で、イラン戦争の早期終結を望むのは当然です。

いずれにしても、インフレの再燃は避けがたく、せっかくプラスが続いている実質賃金や日本経済に冷水を浴びせることにならないことを願うばかりです。

諏訪信用金庫アプリ

ダウンロードはこちら→

スマートフォンから簡単に新規口座開設や残高照会、入出金明細の確認などができます。登録は無料です。



Download on the App Store



GET IT ON Google Play



諏訪信用金庫

SUWA SHINKIN BANK

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4572 FAX 0266-24-4055



ホームページ



Instagram